

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

今週は米FOMCに注目 (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 武富 龍太

今週のドル円予想レンジ **103.60 ~ 104.80**

りそなWEEKLY COLUMN

目前に迫る新型コロナウイルスのワクチン実用化 (P3)

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 荻谷 将吾

- 新型コロナウイルスのワクチンの承認・供給が始まっています
- 「ワクチンの接種に同意しますか？」との問いに同意すると回答したのは72%
- 日本人の「慎重な」国民性を発揮しましょう

2020/12/14

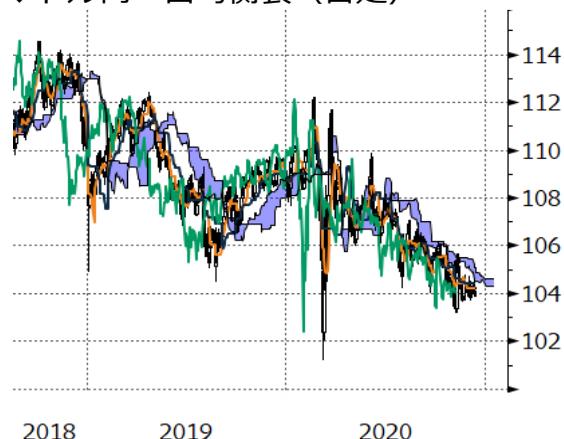
りそな外為レポート

今週は米FOMCに注目

今週のドル円予想レンジ **103.60 ~ 104.80**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週は、11月初から続いていたドル指数（ドルインデックス）の下落が一服した。急ピッチで下げていたため自律調整と見られ、需給面ではやや変化が見られた週となった。

そもそも11月以降のドル下落は、6~8月の様に米実質金利の急低下を伴っておらず、ワクチンの実用化期待を背景に米国から新興国等へのキャリー取引拡大が要因だと考えている。

そのような環境下、今週は米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催される。16日の米FOMCでは、追加緩和（米国債購入年限長期化、量的緩和）の有無が焦点となる。足元では雇用指標を中心に弱さも目立つが、米国でもワクチン接種が開始される見込みの中、中長期的な景気下振れリスクは低下している。追加緩和が急がれる状況ではないだろう。

追加緩和へ動いたECBに対して、動かないFRBという構図となれば、ドルの下落圧力は更に緩和されてくるのではないだろうか。

(カスタマーディーラー 武富龍太)

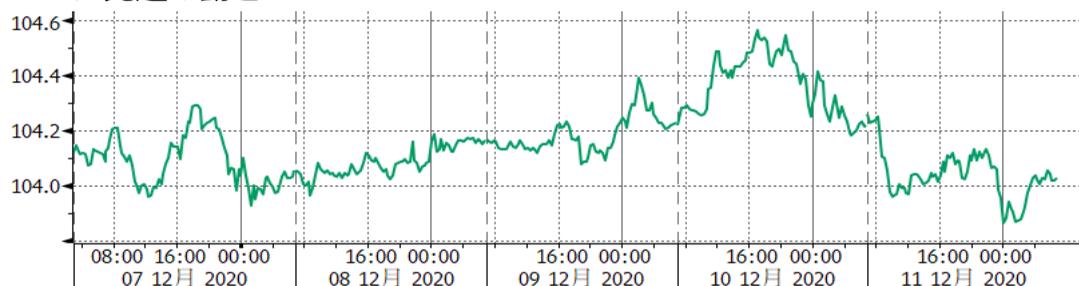
◆今週の日程

14日(月) 日 日銀短観（12月調査）	16日(水) 米 FOMC（結果発表）
15日(火) 中 11月生産・小売・投資	17日(木) 英 BOE金融政策委員会（結果・議事録）
15日(火) 米 11月鉱工業生産	17日(木) 米 11月住宅着工・許可件数
16日(水) 欧 12月PMI	18日(金) 日 11月CPI
16日(水) 米 11月小売売上高	18日(金) 日 日銀金融政策決定会合

◆今週の予想（ドル高 強い↑ 普通↑ ドル安 強い↓ 普通↓） NY引け値 12月11日(金) 104.04円 VS 12月18日(金)

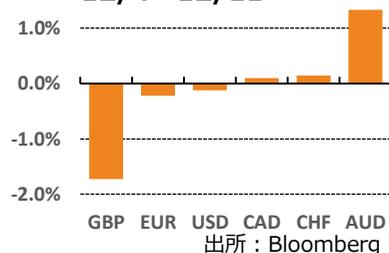
東京										大阪			埼玉				
井口	中根	石川	湊	小新	鳥井	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	休	↑	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス

12/4→12/11



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

目前に迫る新型コロナウイルスのワクチン実用化

- 新型コロナウイルスのワクチンの承認・供給が始まっています
- 「ワクチンの接種に同意しますか？」との問いに同意すると回答したのは72%
- 日本人の「慎重な」国民性を発揮しましょう

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 荻谷 将吾

感染拡大に歯止めがかからない新型コロナウイルスに対し、急ピッチで開発が進められてきたワクチンの承認や接種が次々と始まっています。

「ワクチン」は毎年秋ごろに接種するインフルエンザ予防接種のように、接種することで体内に免疫を作り、病気にかかることを予防するための薬です。「治療薬」は既に病気にかかった後、その病気や症状を緩和・進行を遅らせる等の効果を持った薬です。

「ワクチン」は感染拡大のスピード鈍化や抑制効果があり、「治療薬」は感染した人の重症化率や死亡率を低下させる効果があるといわれています。

「治療薬」は新薬の開発に加えて、既に別の病気の治療薬として開発された薬の中から新型コロナウイルスに対して効果のある薬を探す研究も進んでいます。日本においてもエボラ出血熱の治療薬であった「レムデシビル」の使用が承認されており、既に新型コロナウイルスの患者に投与されています。その一方で、新型コロナウイルスの「ワクチン」はまだ開発中であり、先進国で供給されているものはありません。（ロシアや中国などワクチンの治験が完了せずに自国内や一部の国で使用している例もみられます）

現在世界で212種類のワクチンが開発中とされており、その中で最終段階の治験に進んでいるワクチンは11種類、更にその中で2種類が治験データを揃え、当局へ緊急使用を申請しています。（11月27日時点）

米国では審査当局であるFDA（食品医薬品局）が、治験データを揃えた米国のファイザー社とドイツのバイオテック社が共同開発するワクチンと米モデルナ社のワクチンの審査を行っている状況です。（【図1】参照）

早ければ12月11日にも緊急使用が承認される可能性があり、年内実用化の期待が高まっています。

欧州ではEMA（欧州医薬品庁）が、ファイザー社/バイオテック社、英アストラゼネカ社/オックスフォード大、米モデルナ社のワクチンの逐次審査中※です。米国と同様のスケジュールで審査を進めるとの報道もあり、欧州でも年内に使用承認が下りる可能性があります。※製薬会社から進行中の治験データをリアルタイムで提出を受けて評価する仕組みのこと

英国では12月2日にファイザー社/バイオテック社のワクチンが承認されており、12月第2週からワクチンの接種が始まっています。

日本国内で開発されたワクチンの供給は2021年末～2022年頃の見通しですが、海外で承認されたワクチンを国内でも承認していく見通しで、接種が開始されるのは早くも2021年の第1四半期頃とみられています。

ワクチンと治療薬の違い



具体的なワクチンの開発状況は？

りそな WEEKLY COLUMN

【図1】



出所：Bloomberg・各種報道

ワクチン承認後の 2つの課題

①接種しない人の存在

ワクチンが当局によって承認された後は各国の接種計画に基づき国民への接種が開始されます。一般的には、医療従事者や高齢者、基礎疾患を有する人から優先的に接種が始まります。国によって対応が異なりますが、日本では希望する人全員が無料で接種できる方向で検討されています。

ただしワクチンが国民に広く行き渡り、新規感染者数の鈍化がみられるには時間がかかる可能性があります。

1つ目の理由はワクチンの接種を希望しない人が一定数存在するためです。【図2】は世界経済フォーラムで報告された調査結果です。約1万8千人を対象に「ワクチンができたなら接種するか」との質問に対して「同意する」と答えた人の国別の結果です。対象の15か国の平均は73%となっており、大半の人は接種する意向であるものの、27%の人は接種したくないと考えているようです。

対象者全体に対する「ワクチンが入手可能になってから接種を受けるまでの待機期間」の質問では、「3か月以内に接種を受ける」と答えたのは、52%とおおよそ半数に留まっています。「1年以内に接種を受ける」と答えた人の割合はワクチン接種を希望すると回答した人とほぼ同程度の72%であり、ワクチンの接種を希望する人は概ね1年以内の接種を希望していることとなります。

反対にワクチンの接種を希望しない(対象者およそ5千人)を選んだ理由では「副作用への懸念」(34%)、「治験の進行が速すぎる」(33%)との回答が多く、やはり急速に開発が進行したワクチンの安全性への懸念が大きいようです(【図3】参照)。特に日本は「副作用への懸念」を挙げる人が62%と15か国の中で突出しており、「慎重な」国民性が表れているように感じられます。(筆者も副作用が怖いです)

感染の収束に必要な集団免疫の獲得には65～70%の接種率が必要とされていることを踏まえた上でこの調査の結果を鑑みると、ワクチンが広く行き渡れば、新型コロナウイルスは徐々に収束に向かっていくと予想されます。

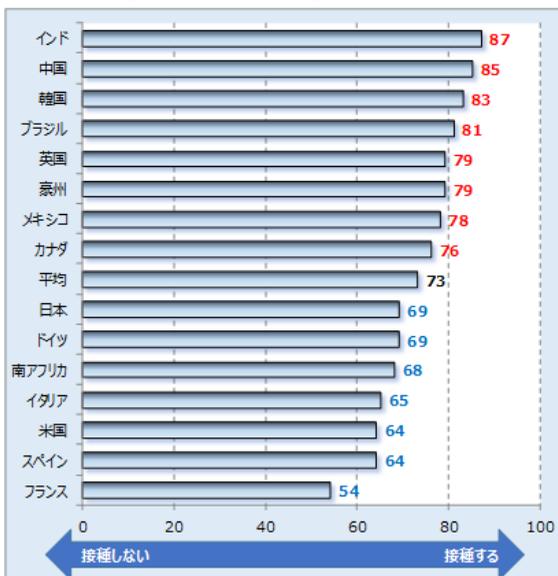
ちなみに日本国内で毎年およそ1千万人が感染しているインフルエンザの予防接種の接種率は50%程度で推移しています。



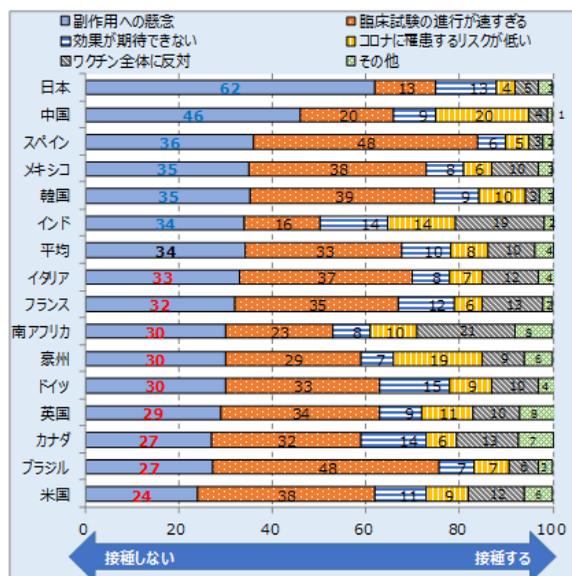
2020/12/14

りそな WEEKLY COLUMN

【図2】 ワクチンができれば接種することに「同意する」と答えた割合



【図3】 ワクチンを接種したくない理由



(注) 世界経済フォーラムとイブソスが主要15カ国で18,526人を対象として2020年10月に実施した調査の結果

出所：イブソス/世界経済フォーラム

ワクチン承認後の2つの課題 ② ワクチンの輸送

次にワクチンが広く行き渡るには、輸送面での課題があります。ファイザー社/バイオテック社のワクチンはマイナス70度での保存で最長6か月の保存、2-8度（冷蔵庫程度）では5日程度しか持たないとされているからです。マイナス70度で保管できるような超低温設備を持つ病院はほとんどなく、米国の一部の州では病院が確保に殺到しており既に手に入りづらくなっていたり、「ドライアイスや氷でワクチンを冷やししながら5日以内に輸送する」という計画が検討されていたりと、ワクチン承認後の供給に向けて急ピッチで準備が進められています。

最後に



ワクチンの承認・供給開始の目途がついたことにより、新型コロナウイルスの収束への道筋が微かに見えてきましたが、まだまだ時間がかかりそうです。

新型コロナウイルスの拡大を止めるためには、全員があらゆる活動を自粛することが一番の近道かもしれません。しかしながら、経済への影響など相当の犠牲を伴うため、そういった行動は実質できないのが現状です。

いずれワクチンが承認され、接種が始まれば感染者も徐々に減少すると思われそうですが、相応の時間がかかります。それまでの間、経済活動を継続しながらも、新型コロナウイルスに感染する人を1人でも少なくする為には何が必要なのでしょう。

- 個人的には、私たちの持つ「慎重な」国民性を日々の行動の中で発揮し
(例：手洗いうがいを入念に/密な場所は避ける/缶ビールの飲み口を消毒してから飲むetc.)
- かつ新しい生活様式に適應しながら、楽しく過ごすことが重要だと思っております。
(例：テレワーク/オンライン飲み会に挑戦/飲食用のフェイスシールドをつけて外食etc.)

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。